

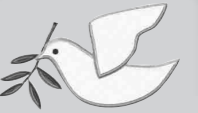


呉港外で米軍機の猛爆を受け奮戦する「戦艦榛名」写真提供・筆者

軍港の町「呉」6歳で終戦

私は昭和14年2月11日、紀元節の広島県生まれである。2歳のとき大東亜戦争開戦。幼児期は戦争の真っ只中で、6歳のとき終戦になった。初等科6年、高等科2年の8年制国民学校最後の入学児童

街も戦場だった」で、日本各地を機銃掃射した米戦闘機に取り付けられたガンカメラで写した、銃撃実写カラー映像を見た。銃撃する戦闘機から見た、銃撃される私たちのことがわかり複雑だった。レポーターが、90歳を超える銃撃操縦士に「民間人銃撃」について質問すると、「ついでに銃撃、民間人を撃つかどうかは操縦士の気分次第」と言った。実は、私の左足甲の内側には、機銃弾で被弾した5センチほどの傷がある。麦の間へ伏せたとき左足が横へ出ていて米操縦士が外して撃った銃弾に被弾したのだろう、痛いより熱かった。



永久平和を願って 次世代に戦争体験を語り継ぎたい

私の戦争体験談 ⑧

秘書広報課
☎24-8801

である。海軍鎮守府の呉に近かったので戦争を身近に体験し、終戦直後の混乱も闇市も食料難も体験した。戦時中、私たち子どもも大人に混じり金属を回収し、松の幹にのこぎりで筋を刻んで、松ヤニを採り、根を掘って松根油を集め、池のヒシ、野山のドングリや食べられる野草を採り、食用蛙を

いながら登校する私たち学童の群れや遊び中の私たちを、超低空で、バリバリ機銃掃射した。登校中などは麦畑の畝の間へ逃げ、一斉に伏せるのだが上から見れば丸見えである。町で唯一の製塩工場があり、構内は私たちの遊び場になっていた。米戦闘機は、工場の煙突をかすめるほどの高さ30mの低空からバリバリ機銃を掃射した。銃撃で製塩工場の

戦時下・8年制国民学校 最後入学児童の戦後70年

軍港の町 呉

土器町 實近 昭紀さん

獲って手足を千切って干し軍用油や食料の足しにした。戦地の兵士へ手紙や絵を置き慰問袋を作って送った。都会では、女学生らも挺身隊として軍需工場で働いた。これを「銃後」という。

呉は62回米軍機の空襲を受けたが、その都度、飛来の艦載戦闘機が、高等科生徒の引率で軍歌を歌

ニガリを貯める大きな貯留槽の厚さ10ミリほどの鋼板は、穴だらけになり至近距離での銃弾貫通孔は、反動で銃弾が貫通した手前側へ逆にめくれていた。私たちはイラク、シリアなどの子どもたちと同じ、いつ死ぬか分からない境遇にあった。私たち子どもの遊びの一つは100mほど

も無数に散らばっている、触るとまだ熱いピカピカの真鍮製機銃葉莢と、地中深く打ち込まれた機銃弾を掘り出して数を競い、金属回収の隣保班長へ届けることだった。「戦艦大和」無きあと、呉港外と近傍海域へ係留され、浮き砲台となつて呉を守っていた歴戦の「戦艦榛名」「伊勢」「日向」3隻と「重巡利根」ら群への米軍機の猛爆と、艦船群や地上砲台の対空砲火戦闘も見た。呉への爆撃の一部を言うと最初の昭和20年3月19日、艦載戦闘機350機、2回目の5月5日、B29爆撃機152機、7月24日、戦闘機870機、7月28日、戦闘機950機、B29爆撃機110機というすさまじさであった。これら空襲の都度、私たちは飛来する米戦闘機の機銃掃射を受けたが、超低空では、米操縦士の顔や表情も見え、最後には慣れつこになつた。麦畑へ逃げても上からは丸見えだったが、米戦闘機は、私たちのそばを掃射して飛び去り、私たち子どもには当てなかった。

戦後、米操縦士に質問 「民間人をも銃撃するのか」

平成27年3月9日、夜9時からTBS系2時間テレビ番組「私の

原爆の体験そして終戦

呉爆撃のあと、私たちの町は呉市街で、焼けた新聞などの燃えカスや降灰が風で運ばれ降り積もっていた。夜は40キロ先で本が読めるとされた敵機索敵の巨大な探照灯の条光が数十上空を忙しく交錯し美しかった。

戦争も末期となり空一面端から端まで、何百機というB29の大編隊が天大空を圧し、一つの生き物のように一糸乱れず陽に銀翼を輝かせ、飛行機雲を引き轟音を轟かせて東進する様は、威風堂々、敵ながら天晴れ。6歳の少年は敗戦を確信した。

が広島へのピカドン原爆投下だった。一瞬で14万人が死亡し以後も亡くなり続け、今も被爆手帳を持った15万人余が苦しんでいる。私たちの町から身内を探しに行つた人は、次々原爆症で亡くなった。

戦後の混乱 生きるために

「全部は盗るなよ」

朝礼で前に並ぶ同級女子の髪には虱がうごめき、髪の毛の白い虱の卵を櫛で鋤いて取る。毒の白いDDTを頭から振りかけられ頭も真っ白になつておせていた光景が、今でも蘇る。教科書を墨で真っ黒に塗り潰し、終戦時の噂で、女・子どもはさらわれると恐れられた米進駐軍兵士は陽気で、私たちはジープを追っかけ回した。菓子も砂糖も皆無で甘味は芋や果物、菓子の代わりは煎ったカボチャの種。都会では戦災孤児が一日に何十人も餓死している食料難の中、私たちは徒党を



恐れていた米進駐軍兵士は陽気だった。子どもたちが「ギブミーチョコレート」(チョコレートちょうだい)と言って、ジープ(軍用車輛)を追いかけた。(資料写真)

戦争は最大の悪

私は、戦争と終戦直後からの戦後を知っている最後の年代である。戦争は人類が足るを知らない最大の悪である。「賢者は歴史に学び愚者は今を見るのみ」と先哲は言った。歴史を忘れてはならない。戦争の悲惨を知り今の平和を続けなければならない。

GHQ(連合国軍最高指令官総司令部)の命令で、私たち児童が墨で真っ黒に塗り潰した教科書。写真提供・筆者

